

修士論文（要旨）

2008年8月

わが国の孤独死の実態に関する研究

指導 柴田 博 教授

国際学研究科

老年学専攻

20641622

中尾 昌代

目次

序章	1
第1章 研究の背景	2
1) 孤独死について	2
2) わが国の社会保障制度と貧困問題	4
3) 孤独死に関する先行研究について	11
第2章 研究の目的および方法	13
1) 研究の目的	13
2) 研究方法	13
第3章 調査結果	14
1) 東京都監察医務院	14
2) まつど孤独死防止センター報告書(千葉県松戸市常盤平団地)	15
3) 北九州市生活保護行政検証委員会最終報告書	20
4) ヨミダス文書館	29
5) 調査結果のまとめ	36
第4章 考察	38
謝辞	42
参考・引用文献	
資料	

1. はじめに

1) 研究の背景

孤独死には合意された定義がなく、国の統計データもないのが実状であるが、年間死者数2万～2万5千人と推計されており、3万人超の自殺者数に匹敵する。旧厚生省社会・援護局の報告書では、「社会的孤立や孤独」と位置づけられている。

孤独死は状況だけ捉えれば「誰にも看取られず、亡くなったあとに発見される死」であり、尊厳ある生き方や死に方といった課題を踏まえ、福祉的側面、社会生活的側面などのいろいろな視点から捉えるべき問題である。

(1) 問題意識 —社会生活問題として孤独死を捉える

先行研究等から、孤独死の背景として人口動態や家族構造の変化、価値観の多様化等、近年顕著となっている変化が指摘されている。「仮設住宅の壮年層の暮らしと健康の実態調査」が示したものは、社会保障制度や社会政策の不備等により、貧困や孤立・孤独に追いやられ、同時に健康が破壊され、その結果、孤独死に至る、というメカニズムである。ポスト工業社会やグローバル化が進展し、福祉国家の制度自体の危機が言われているなかで、日本の福祉の仕組みは、例えば、「低学歴で未婚もしくは離婚経験があつて非正規雇用で転職も多く、資産も家族もない人」には十分に対応できていない。

孤独死は健康・生活問題の一環として、社会的な責任による対策が必要な問題と捉えるべきである。

2) 先行研究

孤独死をテーマとする先行研究は少ない。発生背景として高齢化や単身化を挙げ、現状の活動を対策としてまとめた研究が多い。また、特定地域での調査がほとんどであり、定義や仮説を定め発生要因や対策を十分検討したものがほとんどない。

3) 研究目的

孤独死が大きな社会問題として注目されている一方で、実態把握が進んでおらず、また、孤独死の何が問題であるかの論点整理が明確でない。

本研究の上位目的は、孤独死に関する社会的・福祉的対策を検討することであり、そのため、孤独死と言われている事例のうち、社会的・福祉的に配慮されなければならない問題を分類する必要がある。そこで、本研究では実態の把握を目指し、以下を目的とする。

「既存の資料を基に、報告されている孤独死事例を収集・整理し、社会的・福祉的背景を含めた、その実像を明らかにする」

2. 研究方法

1) 操作的定義と仮説

操作的定義：「誰にも看取られず、亡くなったあとに発見される死」

仮説：「就労、病気といった生活や健康上の問題を抱える間では、社会的孤立をしている人が多く、さらに健康を害しやすくなり、その結果孤独死に至る」

2) 調査対象及び方法

孤独死についての既存の資料・文献を検索し、データ分類項目を設定したフォームを用いて、整理する。

3) 倫理上の配慮

収集したデータは研究担当者の責任において厳重に保管管理し、そのままの形での公開はせず、論文内で引用する際は個人が特定できない形とし、プライバシーに十分配慮する。

3. 結果および考察

1) 結果

(1) 新聞記事

「孤独死」または「孤立死」をキーワードとし、608件の記事が確認できた。1994年度までは、記事はほとんどない。95-99年度にかけて増加し、一旦減少した後、04年度から再び増加している。95-99年度は、震災影響によるものがほとんどで、07年度の4件の孤独死事例記事についても、北九州市での生活保護に関わる孤独死事例であり、個々の孤独死の背景を収集するには十分なものではなかった。一方、貧困問題や健康問題などを抱えていた事例が複数確認できた。

(2) まつど孤独死予防センター報告書

個々の孤独死の背景を収集するには十分なものではなかったが、貧困問題や健康問題を抱えていた事例も確認された。

(3) 北九州市生活保護行政検証委員会中間報告および最終報告書

生活保護が必要な人への不適切な対応による孤独死事例であり、経済的問題を抱えていたことは明らかである。

(4) まとめ

孤独死の全体像や、どの程度が社会的・福祉的に配慮されなければならない問題かを定量的に明らかにすること、また仮説を明らかにすることは困難であったが、少なくとも一部の孤独死においては、貧困問題や健康問題が、その要因となっていることが明らかになった。

2) 考察

孤独死と言われている事例のどのような場合が、社会的・福祉的に配慮されなければならない問題なのか分類することを目指したが、孤独死事例の背景詳細を得るには至らなかった。しかし、一部の孤独死においては貧困問題や健康問題が要因となっている事例が、調査から明らかになり、近年の社会・産業構造の変化と、それに対応しきれていない社会保障制度や制度の運営が孤独死に少なからず影響しているだろう事が透かし見えてきた。

厚生労働省報告書も認識している通り、失業や非正規雇用が、家族崩壊、経済的基盤の脆弱性や引きこもりなどを作り出すきっかけになるならば、社会的排除の対象になりやすい、例えば、ニートやホームレスといった新しい貧困を含む低所得者問題への対応は、基本的には行政の役割であると考え。こうした現行の社会保障制度の谷間において、生活問題や健康問題を抱えている人に起こる孤独死こそが社会的福祉的対策を必要とする孤独死ではないかと考える。

参考・引用文献

1. 竹中平蔵:闘う経済学, 集英社インターナショナル, 2008年
2. 坂脇昭吉:坂脇昭吉他 現代日本の社会政策, ミネルヴァ書房, 2007
3. 内閣府経済財政諮問会議:経済財政改革の基本方針 2007〜「美しい国」へのシナリオ〜(平成19年6月19日閣議決定),(内閣府ホームページ)
<http://www.keizai-shimon.go.jp/cabinet/2007/decision070620.pdf> . (平成20年6月9日取得)
4. 橋本俊昭、浦川邦夫:日本の貧困研究, 東京大学出版会, 2006
5. 橋本俊昭:格差社会 何が問題なのか, 岩波新書, 2006
6. 中野麻美:労働ダンピングー雇用の多様化の果てに, 岩波新書, 2006
7. 岩田正美:現代の貧困ーワーキングプア/ホームレス/生活保護ー, 筑摩書房, 2007
8. NHK スペシャル取材班 松本秀文・清水将裕・小形修一・春原雄策・ライター 佐々木とく子:ひとり誰にも看取られず, 阪急コミュニケーションズ, 2007
9. 額田勲:孤独死 被災地神戸で考える人間の復興, 岩波書店, 1999
10. 林博幸:林博幸他 社会福祉の基礎知識[改訂版], ミネルヴァ書房, 2006
11. 小田利勝:サクセスフル・エイジングに関する概念的考察と研究課題, 徳島大学社会科学研究所, 1993;6:127-139
12. 柴田博:柴田博他 老年学要論ー老いを理解するー, 健帛社, 2007
13. 柴田博:柴田博他 老いのところを知る, ぎょうせい, 2003
14. 厚生省社会・援護局:「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書(平成12年12月8日開催), 厚生労働省ホームページ (http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0012/s1208-2_16.html). (平成19年3月29日取得)
15. 厚生労働省:全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料(平成19年2月19日開催), 厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/02/s0219-5.html>).
平成19年6月14日取得
16. 厚生労働省:第1回高齢者等が一人でも安心して暮らせるコミュニティづくり推進会議(「孤立死ゼロ」を目指して)(平成19年8月28日開催), WAM NET ホームページ (<http://www.wam.go.jp/wamappl/bb16GS70.nsf/vAdmPBcategory60/E48EBC86CF81BEDC492573460027640A?OpenDocument>). (平成19年9月5日取得)
17. 厚生労働省:高齢者等が一人でも安心して暮らせるコミュニティづくり推進会議(「孤立死」ゼロを目指して)報告書(平成20年3月28日), 厚生労働省ホームページ(<http://www-bm.mhlw.go.jp/houdou/2008/03/dl/h0328-8a.pdf>), (平成20年5月3日取得)
18. 厚生労働省:全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料(平成20年2月27日開催), 厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/02/dl/s0227-8o.pdf>)
(平成20年5月10日取得)
19. 東京新聞:シリーズ孤独死を考える 識者に聞く(4) 第一生命経済研究所 小谷みどりさん(2006年6月30日)
20. 全国社会福祉協議会:孤独死老人追跡調査報告書, 1974
21. 生活問題研究会:「孤独死」いのちの保障なき社会福祉の縮図ー仮設住宅における壮年層の暮らしと健康の実態調査報告書ー, 1997
22. 高林秀明:健康・生活問題と地域福祉 暮らしの場の共通課題を求めて, 本の泉社, 2004年
23. 岩田正美:岩田正美他 貧困と社会的排除, ミネルヴァ書房, 2005年
24. 岩田雅美:神野直彦他 脱「格差社会」への戦略, 岩波書店, 2006年
25. YOMIURI ONLINE 九州発:北九州市でまたも男性孤独死、市職員に就職促され生活保護辞退(2007年7月12日),
http://kyushu.yomiuri.co.jp/news-spe/scrap/hogo/ho_07071201.htm
26. 北九州市生活保護行政検証委員会:第5回議事録(平成19年7月20日開催), 北九州市ホームページ,
http://www.city.kitakyushu.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=18100, (平成19年9月2日取得)
27. 北九州市生活保護行政検証委員会:中間報告(平成19年10月答申)
http://www.city.kitakyushu.jp/file/23010100/houkoku/tyukan_191001.pdf#search='北九州市生活保護行政検証委員会:中間報告' (平成19年12月1日取得)
28. 北九州市生活保護行政検証委員会:最終報告書(平成19年12月)
http://www.city.kitakyushu.jp/file/23010100/kensho/saishuu_191220.pdf#search='北九州市生活保護行政検証委員会最終報告書' (平成20年1月15日取得)
29. .United Nations : World Population Prospects : The 2006 Revision Population Database, 2007,(United Nations ホームページ)
<http://esa.un.org/unpp/> , (平成20年6月9日取得)
30. 国立社会保障・人口問題研究所:日本の将来推計人口(平成18年度12月推計)(2007年5月31日), (国立社会保障・人口問題研究所ホームページ) <http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/suikai07/suikai.html> , (平成20年6月9日)
31. 石弘光:税制改革の渦中において, 岩波書店, 2008年
32. 社会保障国民会議:社会保障国民会議中間報告(平成20年6月19日), 内閣府ホームページ,
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/syukaihosyoukokuminkaigi/chukan/siryou_1.pdf
(平成20年6月25日取得)
33. 厚生統計協会:国民の福祉の動向 2007年第54巻第12号, 2007年
34. 国立社会保障・人口問題研究所:平成17年度社会保障給付費(平成19年10月), (国立社会保障・人口問題研究所ホームページ) <http://www.ipss.go.jp/ss-cost/j/kyuhuhi-h17/h17.pdf> , (平成20年6月9日取得)